

# 平成生まれ33人が新成人に

## 町成人式



町民憲章を唱和

各方面から祝いの言葉  
成人の誓い新たに

今年度大人の仲間入りをしたのは、平成元年4月2日から、平成2年4月1日の間に生まれた33人。成人式にはそのうちの21人が出席しました。式典では、はじめに景山町長が式辞を述べ、「成人には、法律的なものと精神的なもの、2つの意味があると思います。法律的なものでは、選挙権が与えられるということがあります。さつそく衆議院議員総選挙が行われますので、資格がある人はさつそく一票の権利を行使してください」と話し、また「今日を契機に人格を磨き、みんなで助け合う日



西村亮佑さん

野町、日本を共に築きましよう」と訴えかけました。  
来賓の祝辞に続いて、日野中学校時代の恩師、岡田延寿さんが新成人へ激励の言葉を述べ、「中学生だった当時の皆さんの印象は、掃除やあいさつがきちんとできるすばらしい生徒だったということですね。一番の思い出は文化祭で



石田恭太さん

新しく新成人となった33人の門出を祝う町成人式が、8月15日に町文化センターで開かれました。

の人権劇。観ていた人の多くが涙を流して感動されていて、中学生でも町民の皆さんにこれだけ訴えかけることができるとだと思いました」と当時を振り返り、「皆さんとは教師と教え子の関係は終わりましたが、今後は人生の先輩後輩という感覚で付き合ってください」と締めくくりました。

これからは社会人  
責任ある行動を

また、新成人を代表して、西村亮佑さん（下榎）と石田恭太さん（安原）があいさつしました。

西村さんは、「自分は今横



今年は、人気の「サバの味噌煮」などのメニュー



再会喜びあちこちで記念撮影

浜で仕事をしているが、社会の厳しさを痛感した。学生時代とは違い、一つのミスが会社の利益にかかわる責任がある仕事。これから僕たちは社会に出て行くが、責任ある行動ができる大人になりたい」と決意を述べました。

また、石田さんは、「今日から私たちがどう変わるのか。見た目や性格ではなく、社会が私たちを見る目が変わってくる。発言や行動一つでもよく考えて行動しなければ。今日まで育ててくれた両親、温

かく見守ってくれた地域の人、成人式を開いてくれた人たちに感謝したい」と話しました。

懐かしい顔揃う  
給食団んで懇親会

式典の後は、落語家の桂小文吾さん（米子市）による講演と記念撮影が行われました。

また、会場を山村開発センターに移しての懇親会もあり、懐かしい学校給食を囲んで、久しぶりの再会を喜び合っていました。

# ストレスためず大いに笑って

記念講演「権利と義務、そして笑い」

ルールやモラル、義務を守って

今年の記念講演は、落語家の桂小文吾さんを迎え、「権利と義務、そして笑い」というテーマで講演を行いました。

小文吾さんは、14歳のとき五代目桂文吾の弟子となり、翌年桂小文吾を名乗り、上方落語家として活躍。21歳で



軽妙に表情豊かに、プロの落語を聞かせる

「宝塚新芸座」の座員となり、舞台・テレビ・映画などにも出演。現在は米子市に在住し、山陰の噺家として活躍しています。

講演で小文吾さんは、まず人間の権利と義務について触れ、「人は生まれたときから人権というものを持っている。それは命であり、自由であり、平等が保障された権利である。現代では、自由の

名のもとに思い通りに生きているが、その権利の主張に重点が置かれ、義務ということが忘れられている」、「義務とは、道徳上のルール、モラル、そして秩序。人が権利を守るとするならば義務も守らなければならない」と警鐘を鳴らしました。

また、「皆さんに覚えていただきたいのは、社会の義務を守ること。将来子どもができたときにもしっかりとつけをして伝えてほしい」と訴えました。

さらに、「今はストレスがたまる時代。笑いは健康をもたらしてくれる。腹の底から笑って、前向きに生きていってほしい」と新成人にアドバイスしていました。

講演に続いては、古典落語「子ほめ」を披露。ただで酒を飲ませてもらおうと相手を褒めちぎるうとするが失敗してしまうさまを、豊かな表情と声色、しぐさで絶妙に表現し、客席の笑いを誘っていました。